

# インド大乘仏教瑜伽行唯識学派の解脱思想における 智と行の構造の研究

その他（別言語等） の研究課題名	On the Structure of the Wisdom and the Practice of the Yogacara-vijnana-school in Indian Mahayana Buddhism
研究代表者	早島 理
発行年	2005-06
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10422/6466">http://hdl.handle.net/10422/6466</a>

-----

インド大乘仏教瑜伽行唯識学派の  
解脱思想における  
智と行の構造の研究

-----

課題番号：15520048

平成15年度～平成16年度

科学研究費補助金 基盤研究 (C) (2)

研 究 成 果 報 告 書

研究代表者 早 島 理

(滋賀医科大学・医学部 教授)

2005年 6月

---

インド大乘仏教瑜伽行唯識学派の  
解脱思想における  
智と行の構造の研究

---

課題番号：15520048  
平成15年度～平成16年度  
科学研究費補助金 基盤研究 (C) (2)

研 究 成 果 報 告 書

滋賀医科大学附属図書館



2004011573

研究代表者 早 島 理

(滋賀医科大学・医学部 教授)

2005年 6月

## はしがき

本研究、文部科学省科学研究費基盤 C「インド大乘仏教瑜伽行唯識学派の解脱思想における智と行の構造の研究」はインド大乘仏教瑜伽行唯識学派における思想確立の過程を、智と行の構造をキーワードにして明らかにしようとするものである。

インド大乘仏教瑜伽行唯識学派は古くから継承されてきた種々の聖典を、自派の教義確立のため取捨選択しつつ変容を加え、「摂事分」として掌握し提示した。

「摂事分」（『瑜伽師地論』）あるいは「摂事品」（『顕揚聖教論』）に纏められた教義（法）とその解釈（義）に基づき同学派の実践内容と修行階梯が構築されてきた。その実践内容と修行階梯を、Asaṅga 無著（375-420頃）の著作『顕揚聖教論』（漢訳玄奘訳にのみ残存）の解読研究を中心に、解脱に向かう行者の智の構造と具体的な行の階梯の視点から考察した。

この「智の構造と行の階梯」は「阿含経典 → 摂事分 → 瑜伽行学派の個々の経典」の系譜に説かれている。本研究では特に、「阿含経典 → 『瑜伽師地論』 摂事分 → 『顕揚聖教論』 「攝事品第一」」という、聖典の継承過程を明らかにした。あわせて、『顕揚聖教論』が『瑜伽師地論』を継承しつつ、その教義を変容させながら大乘仏教思想を確立する重要なターニングポイントにあることも指摘した。

さらに、この研究を遂行するために、Asaṅga 無著のもう一つの主著、『大乘阿毘達磨集論 Abhidharmasamuccaya』およびその注釈書『大乘阿毘達磨雜集論 Abhidharmasamuccaya-Bhāṣya』の電子テキストを完成し、ホームページ上で公開した。これは、『大乘阿毘達磨集論 Abhidharmasamuccaya』と『大乘阿毘達磨雜集論 Abhidharmasamuccaya-Bhāṣya』を対校させ、両者とも入手可能なデータである梵文-藏訳-漢訳の三本を対照させた校訂テキストである。

また、これらの諸研究をもとに、「仏教と生命倫理」のテーマで、瑜伽行思想が生命倫理を批判的に受け止めながら、如何にして現代の先端医療が抱える問題に対応できるかを考察した。

これまでの研究成果の一部を以下に再録する。今後、瑜伽行唯識思想が確立してきた経過を、Asaṅga 無著の著作研究を通じてさらに明らかにしていきたい。また現代的な課題である、「仏教と生命倫理」についても瑜伽行唯識思想の視点から追求して行く計画である。

## 研究組織

研究代表者 早島 理 (滋賀医科大学・医学部 教授)

研究分担者 なし

## 交付金額

交 付 決 定 額 (配分額)			(金額単位：千円)
	直接経費	間接経費	合計
平成13年度	2,000	0	2,000
平成14年度	1,600	0	1,600
総 計	3,600	0	3,600

## 研究発表など

### (1) 学会誌等

1. 早島理・佐藤浩

「ヒト・ゲノムに関するアンケート調査結果報告

—滋賀医科大学医学科第1学年を対象に—

滋賀医科大学基礎学研究 No.12 2003,3

2. 早島理・シロガマ・頼富本宏

「シンポジウム 密教の展望—現代社会と密教「福祉・共生・生命」—

密教学研究 35 2003,3

3. 早島理

「菩薩と聖弟子声聞 —『顕揚聖教論』における—

印度学仏教学研究 Vol.53, No.1 2004,12

### (2) 出版物

1. 中務哲郎・早島理 他（共著）、『聖典の伝承と受容』

シンクス 2003年5月

2. 早島理（監修）

『梵・藏・漢対校 Electric-TEXT、『大乘阿毘達磨集論』・『大乘阿毘達磨雜集論』』

第1巻 本事分 (xii+324) 2003,9 私家版

第2巻 決擇分 諦品 (vi+272) 2003,10 私家版

第3巻 決擇分 法品・得品・論議品 (vi+354) 2003,11 私家版

Electric Text of the Abhidharma-samuccaya and the Abhidharma-samuccaya-bhāṣya,  
Sanskrit Text with Tibetan and Chinese Translation. Private Issue, Shiga,2003

vol.1(xii+324) ,vol.2 (vi+272) , vol.3 (vi+354)

3. 若原雄昭・早島理 他（共著）、

神子上恵生教授頌寿記念論集『インド哲学仏教思想論集』

永田文昌堂 2004(H16)年3月

4. 早島理 他（共著）

頼富博士還暦記念論集『曼陀羅の諸相と文化』

法蔵館 2005（平成16）年10月 刊行予定

### (3) 口頭発表 / 講演

1. 早島理、「菩薩と聖弟子声聞 — 『顕揚聖教論』における—」  
第55回日本印度学仏教学会 2004,7 駒沢大学
2. 早島理、「先端医療の諸問題」  
宗教倫理学会 「生命倫理からの問いかけ」第1回研究会  
2003,3,25 キャンパスプラザ京都
3. 早島理、「仏教と生命倫理」  
種智院大学公開講座、2003,5,24 キャンパスプラザ京都
4. 早島理、「仏教と生命倫理」  
本願寺第11回ビハーラ活動全国集会、2004,10,2/3 西本願寺聞法会館
5. 早島理、「宗教と科学の接点を求めて」、  
第5回宗教倫理学会学術大会 2004,10,16 キャンパスプラザ京都
6. 早島理、「死の看取り、—仏教と医療の接点を求めて—」、  
本願寺勸学寮第2回例会 2005,3,8 龍谷大学大宮校舎本館講堂

### 研究成果による工業所有権の出願・取得状況

なし